

第2学年西組 音楽科学習指導案

「合体！リズムと音の重なり～拍にのってつくって遊ぼう～」

学習指導者 高口 佳子

1 学級（33名）の実態

（1）方法の習得を目指す自己調整力に関する実態

〔諦めずに試行錯誤する力〕

質問紙調査によると、音楽の時間に一つのことに諦めずに取り組んでいると答えた子供は30名、失敗しても途中で投げ出さずに何度も取り組んでいると答えた子供は31名いる。教師の見取りでは、音楽科の学習において、曲想を感じ取って表現を工夫したり、鍵盤ハーモニカの演奏では正しい指使いで演奏しようと何度も練習したりする子供の姿は見られる。

（2）教科に関する学級の実態

歌唱教材では、歌詞に合わせて強弱を変化させたり、手拍子や足踏みをしながら拍を感じたりして歌っている子供が多い。また、音符や休符を組み合わせることで進んでリズムづくりをする子供は18名、リズムの感じやリズムに名前を付けた子供は12名であった。

習得を目指す「諦めずに試行錯誤する方法」

思いを表現できそうなものから取り組む

2 本題材で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

本題材では、音楽をつくる活動の中で多様なリズムや音の重なり、音楽の仕組みを理解し、自分たちの音楽がよりよいものになるように思いを表現できそうなものから取り組み、音楽づくりをする。

リズムに音を付けることで手拍子では表現できなかった音の長さにも着目し、音符や休符を使った様々なリズム打ちを通して、リズムを組み合わせることで音楽をつくって発表会をしようと学習課題を設定し、リズムの組み合わせによって様々な思いを表現するために音楽づくりをしていく。初めはいろいろ試していきながら即興的に4拍のリズムをつくり、「激しい感じ」「穏やかな感じ」の二方向に分けてリズムものさしをつくる。発表会に向けてよりよい音楽にするために、つくったリズムを手拍子や足踏みだけでなく鍵盤ハーモニカで吹いて表現することで拍の長さについての理解を深める。また、組み合わせたリズムに音を付けたり音を重ねたりしてそれぞれの和音のもつ働きのよさや面白さを感じ取るだろう。その後、音を組み合わせることできれいな響きの音の重なりを見付ける。「ドとレの組み合わせはきれいではないね」「うん、でもドとミの組み合わせはきれいになったよ」と二音、三音と重ねて音の重なりをつくる。そして様々なリズムと音を組み合わせることで音楽づくりを進めていく。リズムと音の重なりが組み合わせられた音楽づくりを通して「いつもは手拍子だけだったけど、音とリズムを一緒に試すと面白いね」「確かに。音の長さもよく分かったよ」と感想をもつ。また、「自分たちは激しい音楽をつくりたいから激しい側のリズムから選ぼう」「そうだね。リズムものさしの激しいリズムから二種類を組み合わせると思いに合う音楽ができそうだよ」「面白い音楽ができそうだね。発表会で友達に聴いてもらいたいよ」と友達と伝え合いながら音楽づくりに向き合っていく。授業の終わりには、「穏やかで優しい音楽をつくりたかったから穏やかなリズムを二種類つなげて演奏したら子もり歌のような音楽になったよ。自分たちの表したかった音楽ができたよ」や、「自分たちは激しいリズムと穏やかなリズムを組み合わせると面白い音楽ができたよ」などと、自分たちの工夫点を振り返り、全体で共有する中で、自分たちが思いをもち粘り強く試しながら音楽づくりに取り組んだことによって表現が高まったことを自覚していく。このように、簡単な音楽をつくる楽しさを味わった子供たちは、今後の鑑賞や音楽づくりの学習に自分の思いを表現していくだろう。

3 題材計画と題材構成の工夫（本時 5/6）

| 次 | 学習の流れ | 題材構成の工夫 |
|---|--|---|
| 一 | <p>① 音符と休符を使ってリズムをつくってあそぼう</p> <p>前題材で学習した全音符、二分音符、四分音符、八分音符と四分休符、八分休符を使って即興的に4拍のリズムづくりをする。つくったリズムでリレーをしてつないだり、友達のリズムを真似したりして楽しみながらリズムづくりをし、リズムを組み合わせて音楽をつくり曲想を捉える。さらに、つくったリズムを「激しい」「穏やか」で仲間分けして「リズムものさし」をつくり、リズムが表す感じを確認する。終末には「リズムを組み合わせて思いに合う音楽をつくって発表会をしよう」という本題材の目標を共有する。</p> <p>② リズムに音をつけてみよう</p> <p>①時でつくったリズムを鍵盤ハーモニカで吹き、同じリズムを繰り返したり、音楽の仕組み（呼びかけと答え・変化・反復）を使ったりして、伸ばす音の長さやリズムの特徴を捉える。三つの音楽の仕組みは既習曲を使ってを確認する。初めは全員同じ音で吹き、次にいろいろな音で吹くことで音が重なる面白さに気付いたり、音の重なりきれいな響きにも目を向けたりしていく。リズムと音を自由に組み合わせて吹く際にはどんな感じがしたかを確認する。</p> | <p>【達成意欲を高める目標共有の工夫】①</p> <p>①時では既習の音符と休符のフラッシュカードで一つのリズムの反復をする。一つのリズムを徐々に増やすことでリズムづくりができるのではないかと意欲を高め、4拍のリズムをつくろうと目標を設定する。手拍子や足踏みで楽しくリズム打ちを繰り返したことで多様な音符の組み合わせのリズムの特徴を捉えることができるようにする。また教師がピアノで弾いてみることで自分たちも鍵盤ハーモニカで試してみたいと意欲を高める。そして、「リズムものさし」に表した激しいリズムと穏やかなリズムを組み合わせる面白音楽をつくり友達に聴いてもらおうと発表会への意識につなげる。</p> |
| 二 | <p>③ きれいな音の重なりを探そう</p> <p>5～8人のグループに分かれて活動する。②時で音の重なる面白さやきれいな響きを知った子供たちに、もっと音を重ねてもきれいな響きができることを伝え、まずドミソドの音の重なり（ドのビル）を知る。ドのビルを基にしてレのビル（レファラレ）ミのビル（ミソシミ）ファのビル（ファラドファ）ソのビル（ソシレソ）ラのビル（ラドファラ）シのビル（シレファシ）の響きを味わう。何度も吹いたり聴いたりして明るい響きや暗い響きを感じ、響きの特徴を言語化し「明るい」「暗い」の音の重なりものさしをつくる。</p> <p>④⑤ リズムと音の重なりを組み合わせる音楽をつくろう</p> <p>①時につくったリズムから二つと、③時で見つけた音の重なりから一つを選んで組み合わせる演奏する。8小節程度の音楽をつくるために音楽の仕組み（呼びかけと答え、変化、反復）を使った音楽をつくり、⑤時の終末には出来上がった音楽に題名を付ける。</p> <p>⑥ 合体！リズムと音の重なり発表会をしよう</p> <p>題名と工夫したところや選んだ2種類のリズムの違いを伝えてから発表する。様々な音のビルの響きの違いを感じ取り、題名から思い浮かんだものや自分たちの演奏と比べて感じたことを伝え合う。</p> | <p>【子供が自ら選択して、学びを進める時間】①④⑤</p> <p>①時では、4種類の音符と2種類の休符を選択してリズムづくりを行う。既習の音符と休符を選択して、4拍のリズムをつくっていく。④時では、どんな音楽をつくるか話し合った後、リズムの特徴やきれいな響きの音の重なりの中から思いに合った音楽づくりをするために、リズムと音の重なりものさしを見返して一つの音のビルと2種類のリズムを選ぶ。そして、リズムの順番や吹く回数を工夫して、思いに合う表現になっているか確かめる。その際、他グループの音が重ならないように、グループ活動は五つの場所に分かれ、音の重なり響きやリズムを味わうために、グループ内で演奏したり聴いたりして確かめる。⑤時では出来上がった音楽に題名を付ける。</p> |

4 方法の習得の段階に合わせた手立て 【リズムと音の重なりものさし】②④⑤

| 認知段階② | 想起段階④⑤ |
|--|---|
| <p>②時のたくさん作ったリズムに音を付ける場面では、「激しい感じ」「穏やかな感じ」で分けたリズムの中から吹きたいリズムや音を選び、どうしてそれを選んだのかを問ひかけ、思いを表したい音楽から取り組んでいることを確認する。方法を使うとより思いに近づいた表現ができるというよさがあることを伝える。</p> | <p>「思いに合う音楽にするにはどうしたらよいか」と問ひかけ、思いを表現できそうなものから取り組むとよいことを促す。グループで一つワークシートのものさしを持っておくことで、誰もが簡単に確認できるようにしておく。</p> |

5 本時の学習

| | |
|--------|---|
| 目 標 | グループの思いを基にした表現にするために、音楽の仕組み、リズム、音の重なりを組み合わせ方を友達と話し合っ工夫し、演奏することができる。 |
|--------|---|

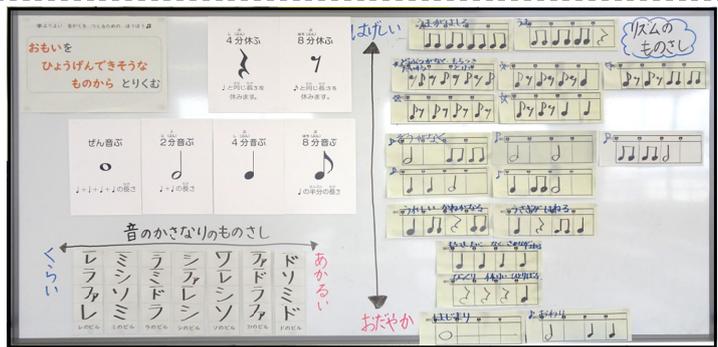
| 学習活動と手立て | 主な子供の意識 | | | | |
|------------------|---|---------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 見 通 し | 1 学習課題を設定する。 | 前の時間はグループに分かれてリズムを組み合わせてみたよ。 | 組み合わせたリズムを鍵盤ハーモニカで吹いてみたけど、もっと考えたいな。 | | |
| | | 今日はリズムと音の重なりを組み合わせるグループの音楽を完成させよう。 | 音楽をつくって発表会をするのが楽しみだ。 | | |
| | | リズムと音の重なりを組み合わせる音楽をつくろう | | | |
| | | 先生の音楽には「ウサギがジャンプしている」がぴったりだ。 | 自分たちの音楽にはどんな名前をつよかな。 | | |
| 行 動 | 2 課題解決に向けて、各グループの思いを表現した音楽づくりをする。 <small>【リズムと音の重なりものさし】</small> | 思いを表現できそうなものから取り組んでいこう。 | | | |
| | | 自分たちは呼びかけと答えの仕組みを使って、動物が話をしているようにしよう。 | 私たちのグループは変化の仕組みを使って、急に天気が変わったみたいにして。 | | |
| | | 山びごっこみたいにしたらいよ。四回ずつ吹いてみよう。 | この穏やかなリズムを何回か繰り返して吹いてみよう。 | 変化だから突然音を変えたいな。激しいから急に穏かにしたい。 | 穏やかなリズムから激しいリズムに変えるのも面白そうだ。 |
| | | 音の重なりは明るい響きが思いに合いそうだよ。 | ラのビルを使うと悲しい感じになるね。 | 暗い響きのビルを使うと思いと違う音楽になったよ。 | このビルの方がよさそうだよ。やってみよう。 |
| | | 明るい響きはドとファとソがあるからソのビルを試してみよう。 | ミのビルも悲しい感じだね。どっちのビルが思いに合うかな。 | 明るい響きのビルを試すと思いに近づいてきたよ。これで練習しよう。 | 暗い感じと違っていたけど明るい響きのビルもいい感じだね。 |
| | | | リズムと音の重なりものさしを見てつくと簡単にできたよ。 | | |
| | | | つくった音楽に名前を付けるよ。どんな名前にしようかな。 | | |
| 振 り 返 り | 3 つくった音楽に題名を付ける。 | 楽しく話をしてるようだ。「友達と楽しくお話はどうかな。」 | サルが呼びかけている様子だから「サルの鳴き声」がいいな。 | 「悪い天気がよくなったよ」がつくった音楽に合うと思うな。 | 突然穏やかな音楽になるから「風がどこかにいった」にしたいな。 |
| | | 友達と話し合っ思いに合った題名を付けることができたよ。 | | | |
| | | 友達と一緒につくりてよかった。いろいろなアイデアが出たよ。 | | | |
| | | | | | |
| | 4 学習を振り返る。 | 激しいリズムと穏やかなリズムを組み合わせるとよかったよ。 | 友達はリズムの組み合わせを何度も変えて考えていたよ。 | 何回も練習して準備できたよ。早く発表会をして聴いてもらいたいな。 | |
| | | 友達はどんな音楽をつくったのか、早く聴きたいな。発表会が楽しみだ。 | | | |

| | | |
|--------|---|------------|
| 評 価 | 自分の思いを友達と伝え合い、音楽の仕組み、リズムや音の重なりを使った音楽づくりに取り組み、思いを表現するために何度も演奏している。 | 【方法：発言、様相】 |
|--------|---|------------|

6 本時の詳細

～見通し～ 学習活動1

前時までにつくってきたリズムものさしと音の重なりものさしを振り返り、本時はリズムと音の重なりが合体した音楽づくりをするという学習課題を確認する。出来上がった音楽に題名を付けるイメージをもたせるために、教師がつくった音楽を提示し、音楽作りに込めた教師の思いを伝えてから演奏する。演奏後、子供たちにどんな感じがするかを問い、思いと曲想をつないで教師の音楽に題名を付け、子供たちの音楽にも題名を付けるという思いを高める。学習活動2で教室が分かれる前に、「思いに合う音楽にするにはどうしたらよいのかな」と問い、自分たちの思いを表現できそうなものから取り組む方法やリズム2種類と音の重なり1種類から選んで音楽をつくること、活動の時間など学習活動2で取り組むことを確認してからグループ活動に移るようにする。



【既習事項を蓄積した補助黒板】

教師の音楽に題名を付け、子供たちの音楽にも題名を付けるという思いを高める。学習活動2で教室が分かれる前に、「思いに合う音楽にするにはどうしたらよいのかな」と問い、自分たちの思いを表現できそうなものから取り組む方法やリズム2種類と音の重なり1種類から選んで音楽をつくること、活動の時間など学習活動2で取り組むことを確認してからグループ活動に移るようにする。

～行 動～ 学習活動2【リズムと音の重なりものさし】・学習活動3

学習活動2では、複数班の音が混ざらずに音楽づくりに取り組むために音楽室の前方、後方、図書室、エレベーター前、メディアルームに分かれてグループで音楽づくりを始める。どんな曲にするか話し合い、音楽づくりを手際よく行えるよう、「音楽づくりボード」を操作し、ボード上で2種類のリズムを置いたりのけたりして並び替えるを繰り返すことができるようにし、より思いに合う音楽に近づける。グループ内で演奏したり聴いたりしながら進めることでリズムと音の重なりが合体した音楽の面白さに気付いたり、思いに合っているか確認したりする。聴き役は交代で行い、どこを演奏しているか分かるようにするために指示役も設定する。完成した際には、練習に励むように声を掛け発表会への意欲を高める。担当する音は一人一音とし、鍵盤楽器への苦手意識をもたないように配慮する。教師は各グループを回りながら、諦めずに試行錯誤する方法を使うことで思いに合った音楽ができたことを称賛し、方法のよさを実感できるようにする。



【音楽づくりボード】

グループ内で演奏したり聴いたりしながら進めることでリズムと音の重なりが合体した音楽の面白さに気付いたり、思いに合っているか確認したりする。聴き役は交代で行い、どこを演奏しているか分かるようにするために指示役も設定する。完成した際には、練習に励むように声を掛け発表会への意欲を高める。担当する音は一人一音とし、鍵盤楽器への苦手意識をもたないように配慮する。教師は各グループを回りながら、諦めずに試行錯誤する方法を使うことで思いに合った音楽ができたことを称賛し、方法のよさを実感できるようにする。

学習活動3では、つくった音楽に愛着をもたすために出来上がった音楽に題名を付ける。その際、音楽に対する思いや音楽の仕組みが伝わるような題名になるように声を掛ける。出来上がったボードと子供たちの様子を見て、「グループで協力していろいろなリズムと音の重なりを試してみることで自分たちの思いのこもった音楽をつくることができましたね」などと称賛し、音楽づくりの達成感や喜びを味わって、方法のよさを実感できるようにする。

～振り返り～ 学習活動4

音楽づくりを通しての学びを捉えるために、題材を通した振り返りカードを用いて全員で思いを表現した音楽づくりができたことに対して振り返りを行う。全員がカードに書けるような支援として、まずグループで振り返る場を設定し、自分の頑張った点や友達のよかった点を伝え合い、その後個人の振り返りの場に移す。振り返りの発表後にはグループ活動の様子の写真を見せたり題名だけ発表したりして、他のグループはどんな音楽をつくったか興味をもたせ、発表会への意欲をつなぐ。

| リズムをくみあわせて音楽をつくってはびょうかいをしよう | | 2年 | くみ | 名前() |
|-----------------------------|---|----|----|-------|
| めあて | 音ぶと休ぶをつかってリズムをつくってあそぼう。 | | | |
| 6月24日 | ふりかえり | | | |
| | はじめはむずかしかったけど、いろいろなリズムを考えることができたのしかった。 | | | |
| | はげしいかんじはたかい音でやるといいとおちいました。 | | | |
| 6月27日 | めあて | | | |
| | リズムに音をつけてみよう。 | | | |
| | けんばんハモニカでリズムをふいてみると、音がどこまで伸びるか分かりました。友だちがいっしょにふいてくれたからいろいろな音をかきかきでふくこともできました。 | | | |

【題材を通した振り返りカードの例】